

学力向上フロンティアスクール用中間報告書(小学校)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	群馬県吾妻郡高山村立高山小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	2	2	2	1	11	15
児童数	34	51	32	52	42	48	2	261	

研究の概要

1. 研究主題

「わかる・できる」が実感できる授業の実践

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

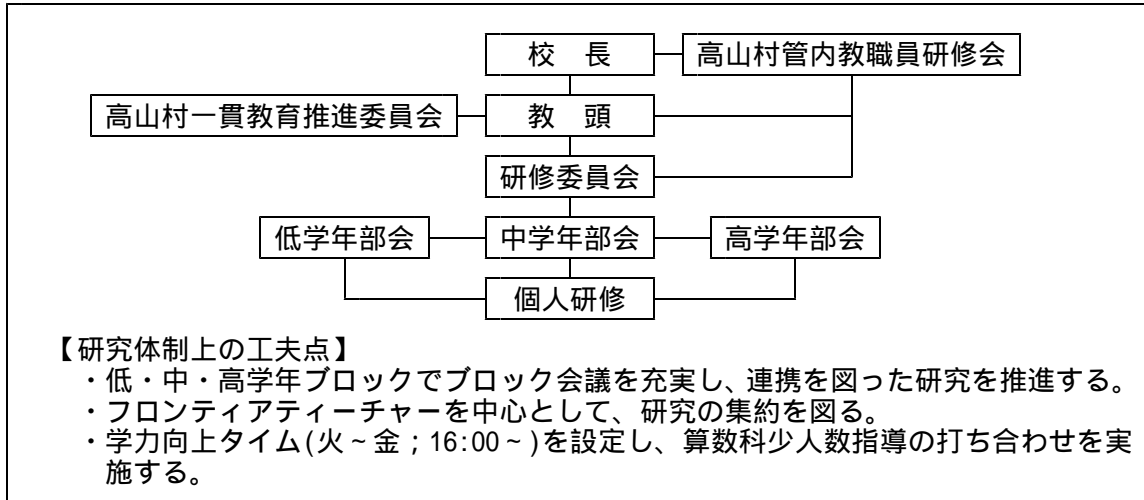
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～6年 算数科 ・ 1～3年；児童のつまずきをなくし、確かな基礎学力を身に付けるため。 ・ 4～6年；児童の理解の状況や学習スピードの差に応じた少人数できめ細かな指導を実施するため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「わかる・できる」が実感できる授業の実践</p> <p>研究の見通し 平成14年度に作成した単元指導計画に基づき、算数科の指導形態・指導方法を改善するとともに指導と評価の一体化を図る評価方法を工夫することにより、児童に確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【研究の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に確かな学力を身につける指導方法・指導形態を探る。 ・ 指導と評価の一体化を図る評価方法を探る。 <p>【研究の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年；TT指導(担任+さくらプラン+きめ細か担当) 1学級3分割も含む、学習の習熟の程度に応じた指導の実践 ・ 2～6年；TT指導+少人数指導(担任+きめ細か担当) 単元の導入はTT指導、単元半ばは少人数指導等を取り入れた指導 ・ 低・中・高学年のブロック制による研究を推進する。 ・ 単元評価表及び自己評価票を用いた指導の充実を図る。
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「わかる・できる」が実感できる授業の実践</p> <p>研究の見通し 学習方法・学習形態を生かす教材開発を進めることにより、児童に確かな学力を身に付けられるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>【研究の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に確かな学力を身に付ける指導方法・指導形態を探る。 ・ 指導と評価の一体化を図る評価方法を探る。 ・ 習熟の程度に応じた指導を進めるための教材開発を推進する。 <p>【研究の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年の指導形態は平成15年度と同様で研究を進める。 ・ 低・中・高学年のブロック制による研究を推進する。 ・ 単元評価表及び自己評価票を用いた指導の充実を図る。 ・ 少人数指導を生かす教材開発を推進する。
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・単元指導計画に基づく算数科の指導形態・指導方法の研究が進み、児童の実態に合った協力的な指導が進められるようになった。
- ・自己評価カード、単元評価表の作成が進み、指導と評価の一体化が図られつつある。
- ・単元評価表については、一単位時間の評価を明確にし指導に生かした。
- ・自己評価カードについては、算数科の実践を生かし他教科への広がりがでてきている。
- ・児童へのアンケート調査(H15・7・10実施)によると、92.3%以上の児童が算数科少人数指導に対して好感触をもっている。
- ・児童からの意見の主なものは次のようである。
 - ・わからないときすぐ質問できわかるまで教えてくれ、勉強が楽しくなった。
 - ・コースが選べ(変更可)いろいろなやり方で問題解決できる。
 - ・自分のペースで学習でき、人数が少なくて落ち着いて考えられる。
- ・保護者へのアンケート調査も大変良好で、児童へきめ細かな指導が期待されている。

2. 今後の課題

- ・指導方法、指導形態、評価方法等に関しては、今後継続して研究を進める必要がある。
- ・児童の実態を継続的に評価していく方法や学力の向上の状況を的確に評価する方法を研究する必要がある。
- ・今年度進めてきた研究をより推進するために、児童の実態に合った教材開発を進めていく必要がある。(発展的な学習や補充的な学習を視野に入れた開発を進める。)
- ・レディネステストの実施方法等を工夫するとともに、レディネステストを実施しなくとも、児童自らが学習する学級を主体的に選択できるような方法を工夫していく必要がある。
- ・校内における授業公開を積極的に進めるとともに、教員の指導力の向上に向けた取組を充実する必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- 【学力調査】
- ・調査の目的；児童の学力の状況进行评估する。
 - ・実施内容；全国標準学力検査(NRT検査)
 - ・実施時期；各年度3月
- 【意識調査】
- ・調査の目的；算数科少人数学習に対する児童の意識を調査する。
 - ・実施内容；自作調査(児童及び保護者対象)
 - ・実施時期；各年度2月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

【研究会等の開催予定】

- ・開催時期；平成17年2月
- ・場所；高山小学校
- ・対象；吾妻管内小学校
- ・会の目的；実践成果の発表（授業公開、授業研究会）

【研究成果の普及予定】

- ・平成15年度は、Webページで3月下旬に公開。
- ・平成16年度は、研究会の実施、Webページで公開。

【フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動予定】

- ・授業研究会における実績報告。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無